

65 延友国境石

久米(境目川沿い)



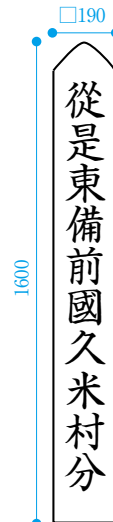
備前・備中の国境となる境目の川で、元禄15年より境界争いがあり、宝永年間に13ヶ所26本の境界石が立てられた。(※吉備郡史より)
その内、現存するのは、梶ヶ野樋門の東寄り南に1基、境目川に沿って数基が現存する。※昔は、川幅が現在より広がった。



国境石1(説明板)北向き



国境石1(東面)



旧庭瀬往來の国境東側にあり、説明板が設けられている。

久米村の国境石

脇を流れる用水は、備前備中の国境とされる境目川です。
この川をめぐる、江戸時代に境界論争がおこなわれてきました。
元禄15年(1702)、備前久米村・今保村と備中の延友村との間でおこった境界争いは、用水問題もからみ5年にわたり争われ、宝永5年(1708)に大内田村の大庄屋孫四郎の仲裁で和談が成立しました。その際、三ヶ村の役人が立会のうえ、境目川にそって13ヶ所、計26本の杭が打たれ国境の標示としました。
この石柱は、備前備中1対のうち久米村分の一つ。当時の人々の辛苦を見守ってきた国境石ですが、一時期行方がわからなくなっていました。地元の探索と現持ち主(岡山市関八田光弘氏)のご厚意により、元の場所にもどされました。

絵図は「撮要録卷之十二」からの写し(一部改変)。

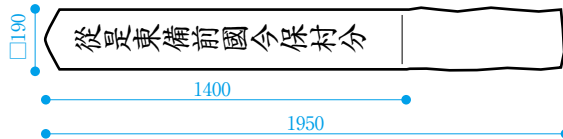
平成14年3月吉日

御南学区水辺の集い協議会
岡山市教育委員会





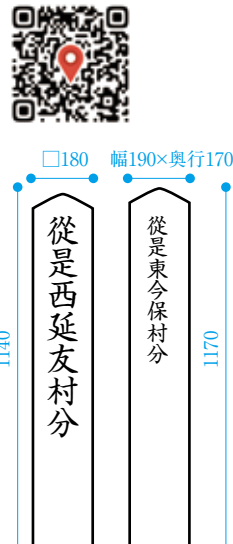
国境石2



横倒しのまになっている。



国境石3(西面)



石柱の一つは、昭和の末期、
⑰ 妙見社の境内に移設されている。



国境石4(北面)

